特集 大森勝山遺跡
ー岩木山を望む縄文人の祈りの場ー

◀いのっち（市立博物館マスコットキャラクター）

2021（令和３）年７月27日、国指定史跡「大森勝山遺跡」を構成資産の一つに含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されました。岩木山を望む美しい自然が今なお色濃く残る大森の地で、縄文人はどのような祈りをささげていたのでしょうか。

世界文化遺産登録までの道のりを振り返り、地域の宝から世界の宝となった大森勝山遺跡のこれからについて考えましょう。

■問い合わせ先　文化財課（☎82-1642）

ユネスコ世界遺産委員会に認められた大森勝山遺跡の価値

約4,000年前の環状列石は、集団墓などの共同の墓域を伴うが、大森勝山遺跡（約3,000年前）の環状列石は共同の墓域を伴わない。いわば、縄文時代における共同の祭祀（さいし）・儀礼の場に特化したとも言える遺跡。縄文時代の祭祀・儀礼をうかがい知れる遺跡である。

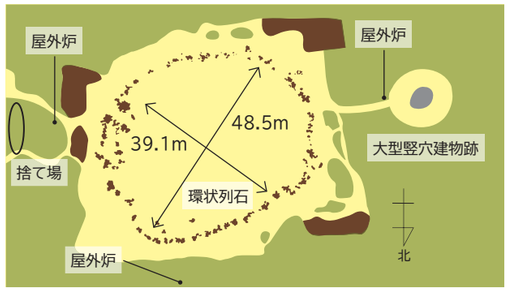
▲環状列石発掘時の全景（写真下が北）

縄文人も見た景色が広がる遺跡

大森勝山遺跡は、今から約3,000年前の縄文時代晩期の環状列石が発見された遺跡です。遺跡の周りは防風林や林に囲まれ、人工物が目に入らない、縄文時代をほうふつとさせる遺跡景観も魅力の一つ。一般的に、環状列石は、祭祀（さいし）や儀礼の場として作られたと考えられています。

国内で唯一！全容の判明した縄文晩期の環状列石

国内で発見された多くの環状列石は今から約4,000年前に北海道や北東北で作られましたが、大森勝山遺跡の環状列石は約3,000年前という比較的新しい時代に作られたものです。整地された地面に盛り土が施され、その周縁部に77組の組石が配置されています。大半の石は、遺跡の北側を流れる大森川と南側を流れる大石川から集められました。調査により約3,000年前の環状列石の中で全容が判明したのは、国内でも大森勝山遺跡が唯一の事例です。

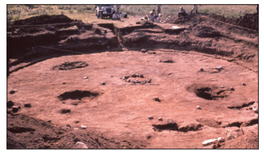


環状列石周辺の位置関係と役割

環状列石の南西には、集会所に利用されたと考えられる大型竪穴建物跡が１棟あります。また、台地の端には土器や石器がまとめて捨てられていた「捨て場」も見つかっています。

冬至（12月下旬）には、岩木山山頂に沈む夕日を見ることができます。日照時間や太陽の位置を計算できたことから、縄文人は高い天体観測の能力を持っていたと推測できます。縄文人は雄大な景色を求めてこの場所に聖域を作り、死者を弔ったり収穫に感謝したりしていたのかもしれません。

▲岩木山山頂に沈む夕日（冬至に撮影）



▲大型竪穴建物跡（直径約13m）

▲捨て場から見つかった土器

現在見ることができる環状列石は、自然石材で再現されたものだよ。実物の環状列石や大型竪穴建物跡などの遺構は、盛り土をして大切に保護しているんだ。